



第 130 号

発行所
宇都宮市立城東小学校
栃木県小学校長会事務局
発行責任者
村上 雅之
印刷所
株式会社宮本印刷

主張 「汝の根に注意を集めよ」

栃木県小学校長会副会長 橋本 毅



和辻哲郎が書いた「樹の根」という文章がある。和辻先生が高野山に登ったとき、空高くそびえるひのきの根に目が吸い寄せられた。空高くそびえているひのきの大木は、力のかぎり四方に広がり、地下の岩にしつかりと抱きついていて、根によって支えられている

ることに気づき、次のように書いています。

「私は老樹の根の前に、根の浅い自分を恥じた。そうして、地下の営みに没頭することを自分に誓った。」
「成長を欲するものはまず根を確かにおろさなくてはならぬ。上にのびる事をのみ欲するな。まず下に食い入ることを努めよ。」
「現代には、たとい根に対する注意が欠けていないにしても、ともすればそれが小さい植木鉢のなかの仕事に墮してはいはしないか。いかにすれば珍しい変種がで

きるだろうかとか、いかにすれば予定の時日の間に注文通りの果実を結ぶだろうかとか、すべてがあまりに人工的である。」
「天を突こうとするような大きな願望は、いじけた根からは生まれるはずがない。汝の根に注意を集めよ。」

現在の学校は植木鉢になっ
ていないだろうか。校長自
身の根はどのようにはって
いるだろうか。教師や子ども
たちの根は苦しみもがき
しつかりと地に食い入って
いるだろうか。
校長は自分自身の根に注
意を集め、さらに、教師と
子どもたちの根を育て、根
がしつかりはれるようにす
るための方策を考えていか
なければならぬ。
(大田原市立西原小学校)

主張 「式年遷宮に思う」

栃木県小学校長会副会長 篠崎 賢治



今年度、全連小三重大会
に参加させていただきまし
た。台風接近のため、伊勢
に辿り着くのが大変でした。
ご存知のとおり、伊勢は伊
勢神宮の町です。昨年は、
式年遷宮の年でもありまし
た。遷宮年の三重大会に参
加でき、嬉しく思いました。
なぜ、二十年ごとなのかは
いくつかの説があります。

一つに、正宮を建てる「匠」
の「技」を伝える限界の周
期が二十年とされています。
「技」を伝える式年遷宮で
もあるのではないかと思いま
した。千年以上、連続と「技」
が伝えられてきました。
教育では、学習指導要領
が十年周期で見直されてい
ます。
社会・世界の情勢・子ども
の実態等をもとに、どの

今回、「生きる力」を育
む「自らの力で、自分の未
来を力強く切り開いていけ
る人間」の育成等を目指し
教育は実施されています。
こんな話を聞きました。
「生きる力」の講話を聞き
帰路についた電車の中で
光景です。多くの乗客が無
言でスマートフォンを操作
していて、車内は静かだっ
た。年輩者が立っていても、
周りに気を留めることなく、
一心不乱に操作をしていた
そうです。

「生きる力」「個性を伸
ばす教育」とはなんぞやと、
考えさせられた「話」でし
た。
校長は、軸足に力を入れ、
「連続」と伝えることを大
切にしていければと思いま
す。
(佐野市立赤見小学校)

栃木県小学校長会中央研究大会

大会主題 「新しい知を創造し

豊かな心をもった子どもを育成を

目指す学校経営の推進」

研修部長 小 牧 明 弘

七月四日、栃木県総合教育センターで開催された。

一 開会

○開会の言葉

山口 史子 副会長
村上 雅之 会長

○会長あいさつ
古澤 利通 県教育長

二 研究発表1
○研究テーマ

「豊かな表現力やコミュニケーションシヨン能力を育てる
外国語活動の推進」

◇発表者

那須烏山市立荒川小

校長 鈴木 博司 先生

◇発表内容(一部略)

1 はじめに

本市は一市一町で教職員が交流しやすい環境である。外国語活動は市教委からのA L Tの派遣により早期から実施されている。現在、

教師の授業づくりへの士気を高めるために、英語の苦手意識を払拭することが大切。校内担当を中心に校内研修会を実施していくことが必要。

④ 小中学校連携の推進
中学校での外国語科へ上手く橋渡しをすることが重要。小学校段階では、外国語に慣れ親しむことが大切で、聞く、話すことへの支援、指導を確認。中学校担当者と連携し、授業参観や意見交換会を設定することが必要。

⑤ 実践・交流活動の推進
外国人や外国での居住経験者を学校支援ボランティアとしての活用を図ったり、交流することの楽しさを実感させたりする必要性。行事の中で外国人とかかわる機会を設定し、コミュニケーションの楽しさやおもしろさを実感させる活動の推進。

⑥ 教材・教具の充実と環境整備
教師が必要な教材、教具を探したり作成したり活用することが大切。教育機器の活用を図るため、市教委へ予算確保の説明

③ 教師の英語力向上

3 まとめと課題
校長としてリーダーシップを発揮し、よりよい外国語活動の時間の充実に向けて担任、推進教員、A L Tに様々な発信をすることにより以前より担任が中心となった授業が展開されるようになってきた。

スタッフ全員が原点に戻り外国語活動が導入された経緯を再確認し、さらに聞く活動(インプット)を豊富に取り入れ子どもと教師、子ども同士が関わり合う活動により、豊かな表現力やコミュニケーション能力を育み自信を持って未来に向かって活躍できる人間を育てたい。

三 研究発表2
○研究テーマ
「教職員人事評価を生かした学校経営」

◇発表者
宇都宮市立国本中央小 校長 梁木 誠 先生
宇都宮市立泉が丘小 校長 若林 匡 先生

◇発表内容(一部略)
1 はじめに
新体力テストや運動や健

康に関するアンケート結果などから本市の子どもたちには、走力・瞬発力・投力の低下、運動のできる子どもでない子の二極化などの課題がある。体力は「生きる力」の重要な要素である。本市では教科と領域の連携を図った学習や休み時間・給食などでの取組を盛り込んだ「元氣アップ教育」を策定した。また、義務教育九年間を一体とした「小中一貫教育」と「地域学校園」を制度化し、平成二十四年度から全市実施している。これらの制度を活用し課題解決に取り組み、推進する校長の学校経営を考察する。

2 研究の内容
① 宇都宮市「元氣アップ教育」推進の実際
ア「元氣アップ教育」推進の実際
・義務教育九年間の系統性の強化
・授業展開の工夫と効果的効率的な授業の展開
・教科間を関連させた教育内容の工夫
・人・社会との関わりを活かした学習活動の工夫
イ「元氣アップ教育」の指導場面

・体育・保健・家庭科の授業、日常生活の時間、学校行事、学級活動、他校との関わり、家庭、地域

② 「元氣アップ教育」を推進する学校経営

・地域学校園の体制・組織づくり

・地域学校園における教育ビジョン・計画づくり

③ 地域学校園における具体的取り組み

・運営会議と部会・分科会の組織化

・教育ビジョン策定

・健康・体力面における一貫性を持たせる取組及び具体的カリキュラム

・運動能力検定プログラムの実際

3 まとめと課題

① 指導方針・設定目標等の明確化

健康意識の向上や健康増進の技能習得意欲の向上が見られた。

② 連携・交流による教職員の高揚

教職員の問題意識の向上が見られ、児童生徒の学校生活適応状況が安定してきた。

③ 学校経営における基軸と特色づくり

地域学校園の特色づくりの方向性が明確となり安定した学校経営が可能となった。

④ 地域学校園における業務の拡大

教職員の業務のスリム化・効率化は校長を中心とした運営会議が大きな役割である。

⑤ 地域学校園間のすりあわせ

地域学校園間の指導方針・設定目標等の調整が必要である。

⑥ 保護者・地域への情報発信

校長を中心に保護者・地域への丁寧な説明や情報発信が必要である。

四 講演会

○講師紹介

橋本 毅 副会長

◇演題 「十歳の壁く子ども」の発達を知る」

◇講師 渡辺 弥生 先生

法政大学文学部教授

◇講演内容

一 子どもの発達のおもしろさ

二 子どもへの関わり方

三 今学校に求められること

講演概要については、平成二十六年三月発行の小学

校長研修記録五三に掲載予定

○謝辞

析の葉

人事関係の制度改正あれこれ

栃木県教育委員会

篠崎 賢治 副会長

山口 史子 副会長

○閉会の言葉

人事異動に関して、今年度改正した内容について紹介いたします。

1 早期退職制度

県教育委員会では、「職員の退職手当に関する条例の一部改正」に基づき、職員の年齢構成の適正化を図ることを目的とし、これまでの勤奨退職制度に代わり、募集人数、年齢等の応募条件を定めて定年前に退職する意思を有する職員を募集することとしました。早期退職制度に応募し、任命権者の認定を受けて退職した職員に対しては、これまで勤奨退職者に適用していた退職手当を割り増す特例措置を拡充の上、適用することとなります。その拡充内容については次のとおりです。

【特定措置の拡充内容】

○ 適用対象年齢及び勤続年数：定年前十五年以内、勤続年数二〇年以上

○ 割増率：定年までの残年数一年につき、3%の割増（※ただし、残年数が一年の場合は2%）

2 再任用制度

本県においては、平成十三年度定年退職者から再任用制度を実施しているところですが、平成二十五年から退職共済年金（給与比例部分）の支給開始年齢が段階的に六十歳から六十五歳に引き上げられることになったことを踏まえ、政府は閣議決定において、国家公務員については、定年退職以降年金支給開始まで無収入期間が発生しないよう、平成二十五年以降に定年退職する職員が再任用を希望する場合は原則再任用する

ものとなりました。また、地方公務員についても当該閣議決定の趣旨を踏まえ、雇用と年金の接続を図るよう要請があったところです。

こうした動きや地方公務員法等の規定を踏まえ、本県としても新たな再任用制度を実施することとしました。今後は、定年退職する教員等が公的年金の支給開始年齢に達する年度末までの間（以下、「再任用原則化期間」という。）において、従前の勤務実績等を勘案しながら、希望者は原則として再任用するものとなります。しかしながら、本人の意欲、能力、健康状態等によっては再任用を行わない場合もあり、希望者全員の再任用を保証するものではありません。また、希望者の任用方針については次の項目が追加されました。

○再任用原則化期間の該当となる再任用希望者を優先的に任用します。

○任用に当たっては、希望と異なる勤務形態や市町となることもあります。

以上、「早期退職制度」「再任用制度」について紹介いたしました。

地区だより

〔宇都宮・上三川地区〕

・宇都宮地区

本地区校長会では、基本目標を「新しい知を創造し豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし、研修を進めた。

学校経営、危機管理、人事などの十のテーマに沿った班別研修を中心に行い、各学校における様々な取組について紹介し合い、協議する中で、成果や課題を共有することができた。

また、十一月には、市教育センターで上三川地区校長会との合同研修会を実施し、文星芸術大学の林香君教授から「『感性豊かな人間形成の根幹につながる芸術教育』の試み」と題して講話をいただいた。

・上三川地区

本地区では、校長の学校経営力を高めるために、研究主題を「学校経営ビジョ

ンの展開」とし、サブテーマを『学校経営の具体策の実践』と設定し、研究を進めてきた。本年度は、各校のビジョンや具体策を持ち寄り、情報交換や見直すべき具体策を検討した。その結果、職員が具体目標を学級経営の細部に渡って反映させることができたり、

いじめ防止策について、学校教育活動全般に位置づけたりすることができると、各学校の教育現場に即した効果的具體策が実施できた。次年度は、研究の観点を絞るとともに、焦点化し、より深まりのある研究を進めていきたいと考えている。

〔上都賀地区〕

本地区では、研究主題を「新しい知を創造し豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」とし鹿沼市と日光市の二市で連携し研修を進めている。

鹿沼市では、様々な課題に対応し生き生きと活動する子どもの育成を目指した学校経営の推進について研修を進めてきた。日光市では、校長として

の資質の向上と諸課題への対応についての研修に取り組んできた。

また、全体研修会では、六月に「スクール・コンプレックス」に関する講演会を行い、一月には八つの分科会に分かれて各市の研究をもとにした事例発表と研究協議を実施した。

〔芳賀地区〕

本地区では、研究主題を「豊かな人間性を育成する学校づくりの推進」―創意ある教育課程の実践を通して―として、研究を進めてきた。

九月には、各学校での豊かな人間性を育成するための様々な取組を発表すると共に班別協議をして、見識を高めることができた。研究協議では、校長に求められる指導性や実践例等について熱心な研修がなされた。

特に、研究主題に迫るためには、各学校の自主的かつ創意工夫した特色ある教育活動が不可欠と捉え、各学校の地域性を活かした様々な取組の実践例を通して有意義な情報交換の場となつた。

〔下都賀地区〕

本地区では、研究主題を「新しい知を創造し、豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営」―学校

の特色を生かしながらくとし、研究を進めてきた。各学校の特色ある実践例を持ち寄り紹介し合う中で、「校長のかかわり」を中心に協議しながら、学校経営における意識をより高めてきた。

十一月には岩舟町代表が、今年度の研究成果を発表するとともに、課題について熱心な議論がなされ成果を確認することができた。

また、とちぎリハビリテーションセンター相談支援部長、佐藤俊夫先生から「大人の発達障害の特徴とその対応」というテーマで、講演いただいた。

〔下野地区〕

本地区では「新しい知を創造し豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」を研究主題として設定し、そのための具体

目標について各校の実態に即した研究を進めてきた。校長の立場を踏まえた「人間学」として、また、自校他校ともに有効な下野市の教育力の向上につながる研修を目指し、具体的な実践例をもとに協議し、各校における学校経営の更なる充実・深化を図っている。

また、六月二十五日には前橋工科大学教授の小林清先生より「東日本大震災から学ぶ危機管理」その時校長は」という演題での講話をいただいた。クロスロード体験による意思決定シミュレーション演習も行い、大変勉強になった。

〔小山地区〕

本地区では、小学校長二十七名がA Bの二班に分かれ、A班は「新しい知を創造し豊かな心をもった子どもの育成を目指す学校経営の推進」、B班は「校長の経営ビジョンを明確にした特色ある学校経営の推進」という研究主題で研修を行い、一月に行われた班別研究発表会で成果を確認するとともに、研修記録として

冊子にまとめた。

また、小中合同の研修として、次のことを実施した。
・金春流能楽師の山中一馬氏による「初歩からの能楽入門」という演題で教育講演会を五月に実施。

・学校経営実践発表（七月）
・全連小や全中連等の報告会の実施や四つの専門部でそれぞれのテーマでの研修を行った。

〔栃木地区〕

本地区では、研究主題を「危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取り組みの推進」とし、まず危機管理を含めた各校の学校経営についての情報交換と、各学校の危機管理に関する実態調査を市内二十七小学校対象に行った。その結果を受けて更に深めた視点を、①危機管理マニュアルの改善・見直し②職員の危機管理能力を向上させるための工夫③学校・家庭・地域等の連携の三点に絞り各視点ごとに事例発表を通して研究を深めている。

十一月の校長会小中合同研修では、東京大学准教授、

東京大学大学院理学系研究科日光植物園長館野正樹先生より「植物の生態から見た地球環境と日本の姿」のご講演をいただいた。

〔塩谷地区〕

本地区では、今年度の研究主題を「生きる力をはぐくみ子どもの明日を拓く学校経営の推進」とし、各市町校長会が独自性を生かし、市町ごとにテーマを設定して研究を進めてきた。

また、地区の全体研修は、年二回実施している。

七月の研修は、「東日本大震災とボランティアについて」と題して、さくら市教育委員会の君嶋福芳様から、災害ボランティアの体験を振り返りながら、支援の考え方や学校での対策について具体的な話を伺い、とても参考になった。

一月末には、各市町ごとに研修成果の発表を行い、県スクールカウンセラーの山岡祥子様から発達障害の現状と課題についての講話をいただいた。

〔那須地区〕

本地区では、昨年度から研究テーマを「ふるさとを愛し、夢や希望に向かって力強く歩む子どもを育てる学校経営」とし、大田原市・那須町・那須塩原市の三市町ごとに研究主題を設定し研修を推進してきた。

第二年度の研究成果は、十一月の小中合同の全体研修会で提案発表し、分科会では市町や小中の校種を越え活発な協議が行われた。

また、この全体研修会では、(株)パン・アキモトの代表取締役社長の秋元義彦氏を招き、グローバル社会に貢献する企業の役割やマネジメントのあり方・ネットワークの重要性について経営者の視点から示唆に富んだ講話をいただき、研修を深めることができた。

〔南那須地区〕

本地区では、研究主題を「学校全体で取り組む共生社会をめざした特別支援教育」とした。特別支援教育の充実を図るためには、校長が校内体制整備や教職員への指導・助言にどのよう

にリーダーシップを発揮し

ていくべきか研究を進めてきた。

年四回全体研修会を実施し、グループ討議や全体協議を行っていった。当地区が発表を行った関プロ山梨大会、全連小三重大会の参加報告も行った。十一月の研究大会では、スクールカウンセラー小野寺律子先生をお迎えし、具体的事例にもとづく特別支援教育の体制づくりについて講話をいただき、実践に結びつく研究を深めることができた。

〔佐野地区〕

本地区では、研究主題を「学校力を高め、信頼される学校を創るための校長の役割」とし、校長としての資質向上と小中一貫教育の推進を目指して、小中合同での研修を行っている。校長としての資質向上を目指して、特色ある学校づくり委員会、学力・体力向上委員会、児童・生徒指導委員会、学校安全委員会の四つの委員会が教育の今日的課題や学校が当面する喫緊の課題について、各校の事例を持ち寄り話し合った。

また、この全体研修会では、(株)パン・アキモトの代表取締役社長の秋元義彦氏を招き、グローバル社会に貢献する企業の役割やマネジメントのあり方・ネットワークの重要性について経営者の視点から示唆に富んだ講話をいただき、研修を深めることができた。

〔足利地区〕

本市は、年間に四回の小学校長研修会と、同じく四回の小中校長合同の研修会を実施している。

小学校長研修会では、平成二十六年度の全国・関河口埼玉大会における「教育課程 知性・創造性」部会での発表に向けて、「知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善」特色ある教育活動のために、

研究主題にして研修に取り組んできた。昨年度は教育課程の充実・教師の資質向上、本年度は、各学校の特色ある教育実践例を持ち寄り、確かな学力を支える学級経営や人間関係づくり、教育活動の評価改善について意見交換を行い研究を進めてきた。

豊かな心をもち、輝いて生きる 子どもの育成を目指す学校経営

『いい顔 いい声 いい心』の教育

豊かな自分づくりとともに生きる喜びのために

小山市立旭小学校 渡辺貞雄

小山市の中央部に位置する二十七学級の大規模校。児童にも浸透しているスローガン『いい顔 いい声 いい心』を根幹に据えた教育を目指しています。努力点の一つとして掲げているのが「共生の心の育成」、本校の特色の一つとして外国籍児童六十一名を擁することが挙げられます。また、特別支援学級在籍児童、通常学級在籍児童でも一人一人の個性は違うこと、それらを踏まえて「共により良く生きる」ことを重要課題と考えています。

もらい、全児童の前で紹介するしました。外国籍児童の誇らしげな表情は印象深いものでした。

また、国際理解教育の一環として三学年の総合学習では外国籍児童の国の民族衣装や料理等を調べ、学校祭で学年発表をしました。民族衣装は保護者からの借り物、日本の子どもたちもそれを着飾って大喝采を頂きました。異文化の交流は勿論、相手理解についても学びを深めました。さらに本校は三年間、学級活動(話し合い)の研究を進めてきました。昨年は栃小教研特別活動県南大会を開催、大勢の方に参観いただきました。研究を進める中で、より良い学級集団の育成、個々の児童の自己有用感の育成に繋がると確信しています。

四月二十三日に実施した「一年生を迎える会」では集会時にいつも私がいさつに使っている六カ国語の『おはよう』の言葉を当てる〇×クイズを実施しました。外国籍代表児童にプラカードを持って

「共により良く生きる」ことは児童にとっても我々教職員にとっても共通の課題です。「児童の満足度は教職員の満足度を越えることはない」ということを肝に銘じ、学校経営を進めていきたいと思えます。

心豊かな児童の育成を目指して 高齢者との交流を通して

佐野市立出流原小学校 荒井哲郎

佐野市の西部、環境省選定の名水百選に選ばれた出流原弁天池湧水が近くにある、自然に恵まれた、児童数七十六名の学校です。

心豊かな児童の育成を目指した取組として、学校経営の具体策「高齢者等との交流や体験活動を通しての思いやりの心の育成」から二つの実践を紹介します。一つ目は、運動会の特別

種目「紅白玉入れ」です。一、三年生の種目として実施する玉入れに、児童の祖父、祖母、地域や養護老人ホームの高齢者に参加していただきました。大勢の祖父、祖母や高齢者が加わったことにより、白



「私たちの国の紹介をします！」

熱した玉入れになりました。玉入れが終わった後、お礼の気持ちを込めて児童による祖父、祖母や高齢者への肩たたきをします。校木のケヤ

キの木陰に置かれた椅子に腰をおろし、肩たたきをされる祖父、祖母や高齢者の顔が笑顔になります。はずかしそうに肩たたきをする児童たちもなにやらうれしそうに見えました。

二つ目は、養護老人ホームの文化祭への参加です。運動会にお招きしたお礼として、養護老人ホームの文化祭に、一、二年生が招かれました。文化祭では、入所者の出し物やゲストの出品

ホーム職員の出し物などを拝見しました。初めのうちは、緊張していた児童たちでしたが、徐々に慣れてきて会場の人たちと一緒に楽しんでいました。参加させていただいたお礼として、児童たちは、ダンスや歌を披露しました。入所者の方は、児童たちのダンスや歌の発表を見て、手拍子や拍手をして喜んでくださいました。

ここに紹介した事例を通して児童たちは、感謝の気持ちを伝えるために具体的な行動をすること、初対面の人にかかわるには自分から働きかけることなどの大切さを学ぶことができたと思います。また、自分の行動で高齢者が喜んでくれたことから、自分に自信をもつことができたのではないかと考えます。



お礼の肩たたき

総合的な学習の時間とのつながりを もたせた、特色ある学校づくり

創作活動を通じた豊かな心と感性の育成

那珂川町立小川南小学校 吉澤 卓

本校の特色ある教育活動「手作り絵本活動」があります。続いて子どもたちが「いわむらかずお絵本の丘美術館」周辺フィールドへ、春・秋・冬の季節に分けて探検活動に訪れます。フィールド探

検では、自然やその中で暮らす生き物たちと注意深く向き合い、感じたことや発見、感動したことなどをスケッチしながら絵本の題材を集めます。探検は、いわむら先生が先導し、植物や動物などを直に紹介してくださいます。子どもたちは、この探検活動の取材をもとに、絵本の構想を練り、伝えたいテーマや物語

この活動は、「生きる力」を育てることをねらいとし、自然や生き物と接したり、友だちが感じたことを認め合ったりする活動を通して、感性豊かな人間を育てることを目指してきました。

一年間の活動の流れを紹介しますと、年度当初に、いわむら先生と本校職員が交流会をもち、講話を交えながら前年の反省や創作活動の課題、絵本作りの年間計画を確認



フィールド探検の様子

の展開、場面構図を練り上げます。二学期半ばには、いわむら先生から子ども一人一人に直接、絵本の下書きについて懇切丁寧に指導していただき、内容を練り直しながら時間をかけて文字入れや着色をし、三学期に絵本を完成させます。

自分の住む地域に愛着と誇りを持つ

足利市立坂西北小学校 石井 萬壽夫

本校が立地する松田・三和地区には、ホタルの会という組織があり、ホタルの里づくりを進めています。ホタルが飛び交うのは一年間のうちで二〜三週間ですが、保存会の方の活動は一年中あります。草刈り、水路の補修、えさの力ワニナ集めなど無報酬で活動しています。その甲斐あってホタルの時期になると多くのホタルが乱舞し、その幻想的な様子を見るために、県内外からたくさんの方が集ま

てきます。

本校はホタルの会の方からホタルの幼虫を学校で預かり、育てるといふ活動を四年生がしています。この活動

本校は今年度で閉校となり、この活動も終了となります。今年度は集大成として、「手作り絵本展」を広く開催しました。八年間の活動の中で創作することの楽しさや難しさを体験しながら、子どもたちは豊かな感性を磨き、大きな成長をすることが出来ました。

を始めて八年目になります。十一月頃、ホタルの会の方から、ホタルの幼虫やホタルのえさとなる力ワニナの育て方、水替えなど世話の仕方を教えていただきます。

三月下旬になると育てて大きくなつたホタルの幼虫を放流します。放流したホタルは水から上がって土の中でさなぎになります。その後六月頃にさなぎから孵つたホタルが飛び始めます。

幼虫を育てた子どもたちは、一般のお客さんよりも早く一番先にほたるの飛ぶ様子を見せてもらえます。自分たちが育てたホタルが目前で飛んでいる様子に子ども



ホタルの幼虫の放流

たちは目をキラキラさせ、手の上にそつとつけて光る様子をじつと見ています。『ホタル』という学校独自の愛唱歌を職員で作りました。その歌を児童集会や地域の方が集まる場で歌っています。歌は本校のホームページで聞くことができます。子どもたちにはとても親しまれている歌です。本年度は、「ほたる音頭」も完成し、運動会の際に、全校で踊りました。ホタルを育てる活動を通して、自分たちの住んでいる地域について、ホタルの里としてたくさんの方がやってくる所、ホタルのすむ自然豊かな所として、素晴らしい子どもたちに伝えたいと思います。そして地域に愛着と誇りを持つてくれることを願っています。

話題の広場

揺籃の藤のように美しく

壬生町立藤井小学校

坂本 信子

本校は、近代が幕を開けた明治六年十二月、園照寺より「藤井学舎」として創立し、子どもたちの心のふるさととして、地域の拠点として、今日まで教育活動に取り組んできた。その間、多くの有為な人材を社会に送り出し、公教育の使命を果たしてきた。取組の成果は、今の子どもたちの姿にも表れている。明るい挨拶ができ、素直な心を持ち、友達同士を認め合える関係を築いている。また、縦割り班活動で、常にリーダーである六年生を中心に行事を盛り上げるなど児童が主体的にいきいきと活動している。

本校の校歌に、『集う藤井の小学校に、花がほほえむ揺籃の藤、風がささやく洗心の松』とあるように、

「洗心の松のように大きく根を張り、揺籃の藤のように美しくたくましい大木になろう」を合言葉に、積み上げてきた輝かしい歴史を受け継ぎ、子どもや地域から愛される学校を目指していきたい。毎年見事な花を咲かせたさくらの木が一部枯れてしまった。その木を輪切りにし、感謝の心を込めながら自分の顔を書いた。記念に昇降口に飾ろうと思う、四十七名の笑顔がこれからもずっとずっと続くように。

那須地区小学校の統廃合の動き

統廃合の動き

那須町立朝日小学校

矢口 輝夫

那須地区は栃木県北部に位置し、小学校は大田原市二十校、那須町十三校、那須塩原市二十五校を有する。近年、児童数の減少が続く、小学校の統廃合が進んでいる。

平成二十五年四月から、片田小+黒羽小

↓新黒羽小

蜂巣小+寒井小+川西小

↓新川西小

平成二十六年四月から、

田中小+黒田原小

↓新黒田原小

大沢小+池田小

↓那須高原小

田代小+室野井小

↓田代友愛小

穴沢小+戸田小+高林小

↓新高林小

私が勤務する朝日小は隣接する大島小へ平成二十八年度から統合の計画である。これ以外にも各市町で統廃合の検討が進んでいる。

小規模校の長所として、

一人一人の児童へのきめ細かい指導ができる。一方、クラス替えができない、競争心が育ちにくい等の短所もある。

学びの広がりや深まり、励まし合いや競い合い等を考慮すると、児童は大人数の中で育てたいと思う。



事務局だより

各地区からの要望や提案を総務部でまとめ、八月の県教委との教育懇談会で、県教委の各担当者と重点を絞って協議しました。結果については、十月の理事研修会で報告しました。

今年の三月に立ち上げたHPは、地区や市町のHP運用担当者の研修会を開催し、情報交換ができるようになってきています。今後、皆様からのご意見を地区

の会長や広報部の方を通してお寄せください。

今年度の大きな大会は全連小が三重大会、関プロが山梨大会でした。関プロが梨大会では、南那須地区の鈴木博司先生が地区での研究の成果を分かりやすく発表し、それを司会者の加藤誠一先生が的確にまとめてくださいました。

年度末になり、事務局では皆様の活動がしやすいように次年度の行事の内容を見直してまいります。(事務局長 佐々木和美)

編集後記

「アベノミクス」の影響で、景気上向き。企業の新規採用数は上向き傾向のようですが、我々公務員の給料は上昇の兆しなし…。こんな悲嘆を忘れさせてくれるのは、子どもたちの純粋で真剣な眼差しです。登校してくる子どもたち一人一人に、

「おはようございます。」と挨拶する日課が私の何

(さくら市立熟田小学校

五味渕俊夫)

